

伝統の守り手たち

発表会で舞を披露した子ども番楽教室の皆さんに、感想などを聞きました。



佐藤 □□さん (五小5年◎)
 畠山 □□□さん (五小6年◎)
 畠山 □□さん (五小5年◎)

町の伝統の番楽は、継承する人がだんだん少なくなっています。僕は番楽が好きでもっとうまくなりたいと思っているので、これからも練習を頑張ります (畠山□□さん)。

関口 □□さん (五小5年◎)
 坂谷 □□さん (五小4年◎)
 鈴木 □□さん (五小5年◎)



番楽教室では、みんなと一緒に練習をするので楽しいです。本番はあまりうまくできませんでしたが、お客さんが見てる前で番楽を踊るのは楽しかったです (関口□□さん)。



笹嶋 □□さん (五小5年◎)
 猿田 □□さん (五小5年◎)
 中嶋 □□□さん (五小5年◎)

3年生の時に、番楽の踊りをやってみたらカッコいいと思ったので始めました。教室の先生たちは優しく教えてくれて、みんなと一緒に踊るのは楽しいです (猿田□□さん)。

栗山 □□さん (五小5年◎)
 吉田 □□さん (五小5年◎)
 川村 □□さん (五小5年◎)



本番はお客さんが見ていたので緊張しましたが、3人の動きを合わせることを意識して、練習どおりうまく踊ることができました。これからも頑張りたいです (川村□□さん)。



五穀豊穡を祈る「山の神」。曲芸的な動きが特徴の舞です。

お囃子や拍子に合わせて舞が進行します。



踊る場所、舞い手、囃子手、観客など、すべてをはらい清める意味が込められた「露払」。今回の発表会や例年の番楽競演会でも、最初に披露される演目となっています。



曾我十郎・五郎兄弟の戦いぶりを表現した「曾我兄弟」。刀が激しくぶつかり合うことから、「剣舞」とも呼ばれています。



「露払」は、途中でボンボリから扇に持ち替えながら舞います。



五城目神明社神楽殿を会場に、午後3時から始まった発表会。



次々と繰り広げられるダイナミックな舞が観客を魅了します。



5月15日、五城目神明社神楽殿で「子ども番楽発表会」を開催し、500年以上の歴史を誇る伝統の舞が勇壮に披露されました。番楽の起源は、修験という山伏集団の宗教的な舞であったと言われています。悪霊を追い払い、天下泰平、五穀豊穡を祈る意味が込められた舞に武士舞や女舞が加えられ、独自に発展してきました。町では、その番楽の保存と伝承を目的に、毎年の神明社祭典前夜に「番楽競演会」を開催していますが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。その代わりとして、町の子ども番楽教室で練習に励む子どもたちの発表の場を設けようと、参観者を保護者や関係者などに限定して行ったのが今回の発表会です。

発表会では、子ども番楽教室に通う五城目小学校4年〜6年の12人が4組に分かれ、「露払」を堂々と披露。合間には、指導役を務める山内番楽保存会の皆さんにより、「山の神」、「曾我兄弟」がそれぞれ披露されました。

受け継がれる伝統の舞

